

# 航空機搭載無線設備の信頼性の実態調査結果(概要)

以下の調査項目を実施することにより、航空機搭載の無線設備の信頼性実態調査結果の概要を以下に示す。

## 調査項目1

無線機メーカーが把握している運用中の無線設備(実際に航空機に搭載して使用しているもの)について、無線設備の種別毎に、過去(可能な限り昔)の平均故障時間間隔【MTBF(Mean Time Between Failure):適用航空機の総合飛行時間×搭載数÷故障台数】の推移等について調査。

無線設備の名称	大型機(エアライン系)	小型機
VHF無線電話	9,472～113,860時間	2,539～7,052時間
電波高度計	8,131～96,950時間	13,051～22,088時間
気象レーダー	13,499～23,293時間	4646時間
ELT(航空機用救命無線機)	100,000時間	—
ACAS(航空機衝突防止装置)	7,331～26,979時間	22,488時間
DME(距離測定装置)	10,323～179,816時間	3,805～27,175時間

## 調査項目2

日本の航空会社における過去2年程度の間、無線設備一装置当たりにおいて発生した故障の回数(サンプル調査)について調査。

無線設備の名称	大型機(エアライン系)	小型機
VHF無線電話	4件 (18台を対象に調査)	0件 (37台を対象に調査)
電波高度計	0件 (10台を対象に調査)	1件 (14台を対象に調査)
気象レーダー	1件 (16台を対象に調査)	0件(5台を対象に調査)
ELT(航空機用救命無線機)	0件 (10台を対象に調査)	0件 (45台を対象に調査)
ACAS(航空機衝突防止装置)	15件 (10台を対象に調査)	2件 (9台を対象に調査)
DME(距離測定装置)	1件 (10台を対象に調査)	0件 (21台を対象に調査)